

## 中央アジア関連研究文献リスト 2004

本リストは、2004年に刊行された、原則としてイスラーム化以降の中国新疆及び旧ソ連邦のムスリム地域に関連する学術文献をリストアップしたものである（理科系のもを除く）。国内で刊行された、国内で活躍する研究者による著作に限定し、エッセイや事典項目等は除外した。なお、各文献の副題はコロンつなぎで統一した。

### 書籍

石郷岡建『ユーラシアの地政学：ソ連崩壊後のロシア・中央アジア』岩波書店（1,700円）。

伊藤敏樹『モンゴル vs. 西欧 vs. イスラム：13世紀の世界大戦』講談社（1,680円）。

岩崎一郎・宇山智彦・小松久男編『現代中央アジア論：変貌する政治・経済の深層』日本評論社（3,000円）。

「総論 中央アジアの眺望：歴史と地域」（小松久男）

「ソ連時代の共和国政治：共産党体制と民族エリートの成長」（地田徹朗）

「政治体制と政治制度：大統領制と権威主義」（宇山智彦）

「民族と政治：国家の『民族化』と変化する民族間関係」（岡奈津子）

「宗教と紛争：イスラム復興と世俗主義の調和を求めて」（帯谷知可）

「国際関係と安全保障：地域国際システムの形成と越境する脅威」（湯浅剛）

「ソ連時代の共和国経済：計画経済体制下の中央アジア地域開発」（中村泰三）

「市場経済移行とマクロ経済実績：分極化する経済システム」（岩崎一郎）

「農業改革：市場システム形成の実際」（錦見浩司）

「環境問題：『負の遺産』と市場経済化のはざままで」（片山博文）

「世界経済への統合：扉を開く天然資源」（輪島実樹）

岩崎一郎『中央アジア体制移行経済の制度分析：政府－企業間関係の進化と経済成果』東京大学出版会（11,500円）。

岩崎雅美編『中国・シルクロードの女性と生活』東方出版（2,000円）。

「ウイグル族の家族と生活」（宮坂靖子）

- 「南疆における家庭生活とジェンダー」(服部判子)
- 「南疆における伝統的な服飾：ジェンダーの視点から」(岩崎雅美)
- 「北疆における服飾：伝統と変容」(村田仁代)
- 「ウイグル族の食生活」(中田理恵子)
- 「カシュガル地区におけるウイグル族の住まいと生活」(瀬渡章子)
- 「冬期の住生活と都市部の現代住宅」(久保博子)

塩川伸明『多民族国家ソ連の興亡Ⅰ：民族と言語』岩波書店(7,350円)。

Timur Dadabaev, *Towards Post-Soviet Central Asian Regional Integration: A Scheme for Transitional States*, Tokyo: Akashi-Shoten. (4,200円)

田畑伸一郎・末澤恵美編『CIS：旧ソ連空間の再構成』国際書院(3,360円)。

- 「経済統合：旧ソ連経済空間の解体との対照」(田畑伸一郎)
- 「安全保障：CIS全体の統合から部分的な協力関係の構築へ」(角田安正)
- 『近い外国』のロシア人：同胞法と国籍法にみるロシアのジレンマ」(岡奈津子)
- 「CIS内のサブ・リージョナル・グループの動向：GUUAMの盛衰を事例に」(廣瀬陽子)
- 「CISと国際関係：ウクライナ・コーカサス・中央アジア」(廣瀬陽子、岩下明裕ほか)

などを所収。

Stéphane A. DUDOIGNON and KOMATSU Hisao eds., *Research Trends in Modern Central Eurasian Studies: Works Published between 1985 and 2000, A Selective and Critical Bibliography, Part I*. Tokyo: The Toyo Bunko, 2003, 211pp.

- “Research Trends in the Former Soviet Central Asian Countries” (UYAMA Tomohiko)
- “Research Trends in Xinjiang Studies” (HAMADA Masami)
- “Modern Central Eurasian Studies in Japan: An Overview 1985-2000” (KOMATSU Hisao)

などを所収。

日本国際政治学会編『国際政治』138「中央アジア・カフカス」有斐閣(2,000円)。

- 「ソ連解体後の境界構築の諸相：ロシアの制度改編と中央アジア諸国との関係を中心に」(湯浅剛)
- 「アメリカの対ウズベキスタン政策：新生国家ウズベキスタンの国家主権とアメリカの覇権」(稲垣文昭)
- 『市民』たちの管理と自発的服従：ウズベキスタンのマハッラ」(須田将)
- 「カスピ海・エネルギー資源開発を巡る国際関係の展開：第1段階の決着」(輪島実樹)
- 「トルクメニスタンの対外政策：ロシアとの天然ガス売買交渉を事例として」(岡田晃枝)
- 「アゼルバイジャンの権威主義の成立と変容」(廣瀬陽子)
- 「グルジア・パンクシイ渓谷問題の種族・信仰的背景」(北川誠一)

林徹・梅谷博之編『チュルク系諸言語における接触と変容のメカニズム：研究調査報

告』(Contribution to the Studies of Eurasian Languages 6) 東京大学人文社会系研究科・文学部言語学研究室。

「カザフ語の指示詞」(西岡いずみ)

「2002-2003 年度キルギス語に関する調査報告」(大崎紀子)

『漢回合璧』新ウイグル語とアクス方言」(西村多恵)

「ウイグル語フェルガナ方言について」(菅原睦)

「ウズベキスタンにおける方言調査報告」(古屋薫)

「チュルク系言語同士の接触と変容」(藤家洋昭)

などを所収。

間野英二・堀川徹他『中央アジアの歴史・社会・文化』放送大学教育振興会(3,150円)。

吉田世津子『中央アジア農村の親族ネットワーク：クルグズスタン・経済移行の人類学的研究』風響社(8,820円)。

## 論文

赤坂恒明「『金帳汗国』史の解体：ジュチ裔諸政権史の再構成のために」『内陸アジア史研究』19、23-41頁。

岩崎一郎・片山博文・輪島実樹「中央アジア諸国の改革・開発・環境：体制転換プロセスの立体的な把握に向けて」『ロシア東欧貿易調査月報』(社団法人ロシア東欧貿易会)49(10)、1-38頁。

岩崎正吾「タタールスタン共和国の英才教育と民族エリートの形成」『文化国際研究』(東京都立短期大学文化国際学科)8、35-44頁。

ウラジーミル・ウスペンスキー「モンゴル、チベット、東トルキスタンの歴史史料としての『欽定外藩蒙古回部王公表傳』」『神戸大学史学年報』19、3-9頁。

上野稔弘「1950年代中国の民族政策と民族学：新疆における民族調査を中心に」『東アジア地域研究』11、19-30頁。

УЯМА Томохико, От «булгаризма» через «марризм» к националистическим мифам: дискурсы о татарском, чувашском и башкирском этногенезе. //Новая волна в изучении этнополитической истории Волго-Уральского региона: Сборник статей. Саппоро: Центр славянских исследований Университета Хоккайдо. С.16-51.

小沼孝博「『西域地理図説』所収の中央アジア諸部に関連する満文記事について」、片岡一忠編『明・清両朝の「藩」政策の比較研究』(平成13年度科学研究費補助金基盤研究(B)(2)研究成果報告書)、66-81頁。

熊谷瑞恵「ナンをめぐる中国新疆ウイグル族の食事文化」『文化人類学』69(1)、1-24頁。

KOMATSU Hisao, "Bukhara and Kazan," *Acta Asiatica*, No.86, pp.75-90.

小松久男「中央アジアにおけるイスラーム復興」、片倉もところ、梅村坦、清水芳見編『イスラーム世界』所収、岩波書店(2,940円)、72-97頁。

ティエリー・ザルコス「二十世紀東トルキスタン及び現代新疆におけるスーフィー教団と聖者崇敬」『神戸大学史学年報』19、10-21頁。

島田志津夫「イラン系文化とトルコ系文化の十字路：中央アジア」岡田恵美子、北原圭一、鈴木珠里編『イランを知るための65章』所収、明石書店(2,000円)、254-258頁。

清水学「中央アジアの体制転換と社会的緊張」私市正年、栗田禎子編『イスラーム地域の民衆運動と民主化』所収、東京大学出版会(4,800円)、223-245頁。

清水由里子「近年の新疆ウイグル自治区における『双語』教育を巡る動向について」『イスラーム世界』63、65-77頁。

白須浄眞「大谷探検隊に関する日本外務省外交記録の紹介」森安孝夫編『中央アジア出土文物論叢』所収、朋友書店(6,300円)、頁。

SHINMEN Yasushi, "The History of the Mausoleum of the Ashab al-kahf in Turfan," *Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko*, No.61, 2003, pp.83-104.

SUGAHARA Mutsumi, "'Devrik Cumle' in Middle Turkic," S.Fujishiro (ed.), *Approaches to Eurasian Linguistic Areas (Contribution to the Studies of Eurasian Languages 7)*, Kobe: Kobe City University of Nursing, 2004, pp.1-13.

須田将「ウズベキスタンのコミュニティにおける住民組織形成：フィールドからの報告」『ユーラシアの平和と紛争』(秋野豊ユーラシア基金)4、73-102頁。

ティムール・ダダバエフ「ウズベキスタンの地域社会『マハッラ』からみた人権の保護・確保」『東欧・中央ユーラシアの近代とネーションⅢ』(スラブ研究センター研究報告シリーズNo.95)、北海道大学スラブ研究センター、27-40頁。

ティムール・ダダバエフ「中央アジア諸国の現代化における伝統的地域社会のあり方と役割：ウズベキスタンの『マハッラ』を中心に」『東洋文化研究所紀要』(東京大学東洋文化研究所)146、100-73頁。

地田徹朗「ソ連邦中央＝カザフスタン関係の変遷(1980-1991)：党エリート人事動向を素材として」『スラヴ研究』(北海道大学スラブ研究センター)51、29-61頁。

角田安正「ロシアの対中央アジア外交」横手慎二編『東アジアのロシア』所収、慶應義塾大学出版会(3,400円)、111-131頁。

- 長縄宣博「日露戦争期ロシアのなかのムスリム兵士」『ロシアの中のアジア／アジアの中のロシア（Ⅱ）』（21世紀COEプログラム研究報告シリーズNo.5）、北海道大学スラブ研究センター、1-20頁。
- 中島隆晴「プーチン政権と中央アジア：九・一一事件を中心に」『海外事情』（拓殖大学海外事情研究所）52(2)、68-75頁。
- 中西健「国際交流の利益実現と在外外国民の利益保護：観光立国をめざす中央アジアのキルギス共和国を事例に」『ユーラシアの平和と紛争』（秋野豊ユーラシア基金）4、43-72頁。
- НИСИЯМА Кацунори, Принятие ислама крещеными татарами и православная церковь: этнокультурное противостояние на Среднем Поволжье в середине XIX в. //Новая волна в изучении этнополитической истории Волго-Уральского региона: Сборник статей. Саппоро: Центр славянских исследований Университета Хоккайдо. С.200-224.
- 西山克典「クルバンガリー追尋：もう一つの『自治』を求めて」『ロシアの中のアジア／アジアの中のロシア（Ⅰ）』（21世紀COEプログラム研究報告シリーズNo.3）、北海道大学スラブ研究センター、37-58頁。
- 番原理「カザフスタンにおける物流の現状と問題点」『物流問題研究』（流通経済大学物流科学研究所）44、15-37頁。
- 半谷史郎「フルシチョフ秘密報告と民族強制移住：クリミア・タタール人、ドイツ人、朝鮮人の問題積み残し」『ロシア史研究』75、85-100頁。
- 平田弘治「アゼルバイジャンの石油産業とコーカサスの経済発展」中津孝司編『ロシア東欧産業新地図』所収、創文社（1,800円）、104-124頁。
- 平田弘治「カザフスタンの経済開発とエネルギー産業」中津孝司編『ロシア東欧産業新地図』所収、131-150頁。
- 樋渡雅人「ウズベキスタンの慣習経済：マハッラ共同体機能の検討から」『アジア研究』50(4)、79-97頁。
- 堀直「清代『葉爾羌』の境域」『甲南大学紀要文学編』134、93-122頁。
- 堀川徹「タリーカ研究の現状と展望：道、流派、教団」赤堀雅幸・東長靖・堀川徹編『イスラームの神秘主義と聖者信仰』所収、東京大学出版会（5,040円）、161-185頁。
- 前田弘毅「シャー・アッパース1世の対カフカス政策：『異人』登用の実像」『史学雑誌』113(9)、1-37頁。
- 南野大介「クリミアにおける民族関係と紛争予防：クリミア・タタール人の社会統合

と市民社会の構築を中心に」『ユーラシアの平和と紛争』（秋野豊ユーラシア基金）  
4、5-42 頁。

湯浅剛「日本の対中央アジア諸国外交：経緯と課題」『最近のロシア情勢と我が国の  
対ロシア外交のあり方に関する調査研究』（財団法人産業研究所委託研究報告書）、  
財団法人世界平和研究所、114-124 頁。

湯浅剛「カザフスタン、ウズベキスタンの対外政策：9.11 事件後のロシア、米国との関  
係を中心に」『イラク戦争後のプーチン政権の対中央アジア政策』（平成15年度外  
務省委託研究報告書）、日本国際問題研究所、31-45 頁。

吉田世津子「宴の作法：中央アジア・北部農村クルグズ人の祝宴とふるまい」、渡邊欣  
雄編『アジア遊学61：世界の宴会』所収、勉誠出版（1,890 円）、91-103 頁。